令和6年度 第3回川崎市社会教育委員会議麻生市民館専門部会 次第

日 時 令和6年12月10日（火） 午後2時00分～

場 所 麻生市民館 第1会議室

次 第

1 開会

2 議事

(1) 令和6年度の主な事業・工事予定について

(2) 令和6・7年度協議テーマの選定について

(3) その他

次回以降の予定

第4回 令和7年2月15日（土）午後1時30分～

(市民自主企画提案会・選考委員会を同日に開催いたします。詳細については別途ご案内いたしますので、この日程でご予定くださいますようお願い申し上げます。)

令和6年度 麻生市民館 社会教育振興事業 実施計画

領域	事業名	事業内容	事業数 (予算)	実施計画												事業実施状況		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
1 社会参加・ 共生推進学習事業	識字学習活動	川崎市多文化共生社会推進指針、外国人教育基本方針、川崎市識字・日本語学習活動の指針に基づき、外国人市民等が日本での生活を円滑に営めるように、日常生活に必要な基礎的日本語を身につけるための学習を支援する。また、学習者と支援者（ボランティア）が共に学び合う関係づくりに配慮し、多文化共生社会の実現をめざす。	千円 2 (455)															
	識字ボランティア研修	川崎市識字・日本語学習活動の指針に基づき、識字学習活動に関わるボランティア等の資質向上に関する学習機会を提供することにより、多文化共生社会の実現をめざす。	1 (81)															
	障がい者社会参加学習活動	地域での体験活動や交流等の学習機会を提供することを通して、障がいのある人の社会参加促進を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、共に生きる地域社会の実現をめざす。	1 (195)															
2 市民自治基礎学習事業	普遍的課題学習	平和・人権・男女平等推進学習 憲法、教育基本法の理念に基づき、世界の平和及び人権の尊重、性による差別や人権に関する問題解決に向けた学習機会を提供し、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成を目指す。	2 (110)															
	世代別学習活動	青少年教室事業 小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。	1 (30)															
	成人教室事業	成人層を対象として、成人期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。	1 (60)															
	シニアの社会参加支援事業	シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。	1 (60)															
	高齢者セミナー	高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期をおくるための支援をする。	1 (60)															
	子育て・共育学習活動	家庭・地域教育学級 子どもを豊かに育む地域社会の創造をめざし、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し、親として市民としての学びを支援する。	1 (123)															
	市民館保育活動	親等の学習活動への参加を促進し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。	3 (127)															
	保育ボランティア研修	子育てを支援する保育ボランティア等の資質の向上に向けた学習機会を提供することにより、地域で支え合う子育ての環境醸成を図る。	1 (20)															
	PTA家庭教育学級講師派遣	子どもの理解や親の役割及び家庭環境、家庭教育に関する地域における諸課題等についてPTAが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な育成に向けた、学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。	1 (一)															
	子育て支援啓発事業	地域における身近な子育て関連情報を保護者等に幅広く提供するために、子育て情報冊子等の作成・配布や、保護者同士の交流を図るための集会等の開催を行う。	1 (48)															

領域	事業名	事業内容	事業数 (予算)	実施計画												事業実施状況			
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
3 市民学習・市民活動活性化学習事業	市民自主学級	市民と市民館の協働により、地域や社会の課題解決に市民自らが取り組むために必要な学びの場を創り、市民の主体的な学習活動や市民活動を活性化させる。	千円 1 (300)														新しい！ご隠居スタイルを目指して 9月18日～11月27日、全10回 ←————→		
	市民自主企画事業	地域や社会の課題解決や地域の特性に応じた生涯学習・文化芸術の振興や、市民の交流・ネットワーク化の活性化等を目的として、集会、講演会等多様な形態の学習事業を市民と市民館が協働で実施する。	2 (160)														哲学風カフェあさお 5月～3月、月1～2回 ←————→	みて、きて、話そう、図書館のこと 11月30日～1月18日、全5回 ←————→	
	市民エンパワーメント研修	市民活動・ボランティアに関する学習機会を提供することにより、市民自らが考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民主体の地域づくりを支援する。	1 (60)														障がい者支援ボランティア養成講座 6月23日～7月21日、全4回 ←————→		
	市民講師活用事業	様々な分野において豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるよう育成・支援を行う。	1 (45)														併包入門基礎講座 11月17日～3月16日、全5回 ←————→		
	P T A活動研修	子どもの健やかな成長を支えるP T A活動のあり方等についての学習機会を提供することにより、各学区や麻生区の特色を生かしたP T A活動の活性化を図る。	1 (30)														4/13、5/21～6/11 5回 ←————→	家庭教育学級報告会 ←————→	
	生涯学習交流集会	いきいきとした麻生区の社会教育の展開に向けた、市民と職員による率直な意見交換を通して、市民が主体的に学ぶ地域の生涯学習環境の醸成を図る。	1 (50)															3月9日に実施 ●	
	地域の寺子屋事業に関する研修等（情報交換会等）	「地域の寺子屋事業に参画し、開設、運営等をコーディネートする市民の育成及び支援を目的とする研修等を実施する。	1 (-)														「寺子屋情報交換会」10月23 ●		
	表現・舞台活動支援事業	様々な手法による市民の主体的で自由な表現活動を振興し、地域に根差した市民の文化創造に資する。	- (-)																
	学習情報提供・学習相談事業	市民の主体的な学習活動・市民活動の支援策の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、適切な形で公開・提供する。また、求めに応じ、市民及び市民グループなどの生涯学習に関する相談に対し、情報提供、助言を行う。	1 (53)														通年（8月を除く） ←————→		
4 市民・行政協働事業・ネット	行政区・中学校区地域教育会議推進事業	行政区・中学校区における学校・家庭・地域の連携による教育への市民参加システムづくりとネットワークづくりを支援・促進し、地域の教育力の向上をめざす。	1 (-)														麻生区地域教育会議 通年 ←————→	教育のつどい、青空子ども会議等 →	
	課題別連携事業	地域での子育てや福祉・環境・まちづくりなどの課題解決に協働して取り組むため、関係機関との連携による会議及び必要な事業を実施する。	1 (-)															子育てフェスタ 3月20日 ●	
	地域学習・文化団体連携推進事業	地域の学習活動を推進している学習・文化団体（サークル連絡会・文化協会・P T A等）とのネットワーク化や事業連携の推進を通じ、市民の主体的な学習活動の活性化、地域の文化や教育力の向上をめざす。	3 (-)														麻生市民館サークル連絡会 通年 麻生区P T A協議会 通年 麻生区文化協会 通年	あさおサークル祭 6月8日～9日 →	
5 現代的課題対応学習	地域コミュニティ交流・学習事業	地域コミュニティの課題解決あるいは地域コミュニティの活動及び交流に係わる学習機会を提供し、市民自らが地域の課題解決や活動及び交流に参加していけるよう支援する。	1 (-)														「ひとのわ」プロジェクト 通年 ←————→	市民が安心して地域活動を始められるような居場所支援事業 →	
	現代的課題学習事業	現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援する。	1 (45)														「デジタルカフェ」スタッフ養成講座 ←————→	デジタルカフェ ←————→	

領域	事業名	事業内容	事業数 (予算)	実施計画												
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
6 市民館 学習 環境 整備	社会教育委員会議 麻生市民館専門部会	川崎市社会教育委員会議規則に基づいて行う。	1 (-)				第1回 7月31日	第2回 9月~10月	第3回 11月~12月				第4回 2月16日			
	刊行・広報活動	(1) 教文・市民館活動報告書、学習記録や調査研究報告書の作成を行い、学習活動や地域情報の蓄積と公開を図る。 (2) 生涯学習に関する情報を提供するため、市民館だより、ホームページなどの作成を行う。	1 (594)		市民館だより ホームページ	年6回(6月・8月・10月・12月・2月・4月) 通年									R6の活動報告書は教育文化会館がとりまとめ	
	情報機器等整備	総合教育センター視聴覚センターの市民への直接的な窓口として、教文・市民館で情報機器等の貸し出しを行う。	1 (-)			4~6月	R5活動報告書作成						11月~	R6活動報告書作成準備		

■生涯学習支援課の事業

事業名	事業内容	事業数 (予算)	実施計画												事業実施状況
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
麻生区生涯学習推進会議	川崎市生涯学習推進計画および麻生区生涯学習推進計画に基づき、麻生区生涯学習推進会議を設置し、区における生涯学習推進体制の整備や生涯学習事業の連絡調整を行い、麻生区の生涯学習を推進する。	千円 1 (-)													
麻生区 課題 対応 学習	里地・里山保全 推進事業	麻生区及び周辺地域の里地・里山保全活動を通し、自然や暮らしの歴史、文化等を継承し、次世代へつなぐための様々な活動を展開する。	1 (844)												
	麻生区多文化共生 推進事業	川崎市多文化共生社会推進指針に基づき、地域の人的資源を活かしながら、異なる文化的、歴史的背景を持つ市民の人権が守られる感性豊かな地域、国際的な視点を持ったまちづくりをめざす。	1 (329)												

令和6年度 麻生市民館 工事等の実施計画

(令和6年12月10日現在)

工事名	内容	予算 (千円)	実施計画												事業実施状況
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
麻生市民館照明LED化工事	照明器具をLED化する工事。ESCO事業として実施。	工事のみ 39,347													
麻生市民館高架水槽更新工事	高架水槽 更新工事														
麻生市民館空調制御装置・防火ダンパ更新工事	空調制御用PC、各空調機センサ、空調ダクト防火ダンパの更新														
麻生市民館受水槽更新設計業務	受水槽 更新についての設計業務														
【軽易工事】冷却塔用メーター補修工事	給水量確認用メーター期限切れのため更新	204													
【軽易工事】抽気タンク圧カセンサー補修工事	空調用冷温水発生機の部分的な補修	220													
【軽易工事】3階入口フロアヒンジ補修工事	市民館3階入口扉の開閉不良補修	182													

令和6年度 麻生市民館岡上分館 社会教育振興事業実施計画

(令和6年12月10日現在)

領域	事業名	事業内容	事業数 (予算)	実施計画												事業実施状況	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
2 市民自治基礎学習事業	世代別学習活動 シニアの社会参加支援事業 (入門コース)	シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるように支援する。	1 (79)							「ウクレレを弾こう」 9/4~10/2 (全5回) 参加者: 15名							ウクレレを通じて地域活動や仲間づくりにつなげていくことを目的に実施。 対象: 概ね50歳以上の方を対象
	子育て・共育学習活動 家庭・地域教育学級	子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し、親として市民としての学びを支援する。	1 (113)							「思春期と向き合う保護者のためのガイド」 10/6~12/8 (全5回) 参加者: 18名							思春期の子どもを持つ親の困りごとを新しい視点で学ぶことで家族のコミュニケーションを円滑にし、安心して子どもの成長を見守る親となることを目指して実施。 対象: 小学生以上の子どもの保護者
3 市民学習・市民活動活性化学習事業	市民自主企画事業	地域や社会の課題解決や地域の特性に応じた生涯学習・文化芸術の振興や、市民活動のネットワーク化の活性化等を目的として、集会、講演会等多様な形態の学習事業を市民と市民館が協働で実施する。	1 (100)							「ポッチャを通じたコミュニティづくり」①6/29・②8/31・③9/21 参加者: 31名 中止 参加者: 23名							誰もが一緒に楽しめるスポーツであることを知り、地域のコミュニティにつなげることを目的に実施。
	市民エンパワーメント研修	市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供することにより、市民自らが考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民主体の地域づくりを支援する。	2 (79)							①「迫りくる災害に備える！リアル防災講座」 6/30~7/28 (全6回) 参加者16名							①親子で地域の防災事情を学び、仲間との学びや体験を地域で伝え、生かすことにつなげるために実施。 ②健康でいることが防災にもつながることを知り、災害への備えの意識を高めることを目的に実施。
	生涯学習交流集会	いきいきとした岡上分館を拠点とした社会教育の展開に向けた、意見交換や成果発表などの交流を通して、市民が主体的に学ぶ地域の生涯学習環境の醸成を図る。	1 (18)													3月予定 ●	
	学習情報提供・学習相談事業	市民の主体的な学習活動・市民活動の支援策の一環として、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、適切な形で公開・提供する。また、求めに応じ、市民及び市民グループなどの生涯学習に関する相談に対し、情報提供、助言を行う。	1 (1)														通年
4 協働・市民学習ネットワーク行政	麻生区地域課題対応事業	生涯学習振興の視点から地域課題に対応した区役所費による事業の実施を行う。	1 (340)							「ファミリー体験学習in鶴見川」9/28 参加者: 4組8名 *台風10号の影響や前日の大雨予報により、内容を変更して実施							河川における治水の仕組みや鶴見川流域を利用した体験学習を行う。 対象: 区内在住・在学の小学3~6年生と保護者
5 事業現代課題対応学習	地域コミュニティ交流・学習事業	地域コミュニティの課題解決あるいは地域コミュニティの活動及び交流に係わる学習機会を提供し、市民自らが地域の課題解決や活動及び交流に参加していけるよう支援する。	2							「図書室ひろば」11/22、12/6							図書室を活用して地域のために何か始めたいきっかけづくりや参加者との交流促進のために実施する。
																	「ウクレレ持って大集合」2/1 ウクレレを参加者同士の交流に係わるツールとして活用し、自主的な活動に向けた仲間づくりにつなげていく。 定員: 30名ずつ

*その他、市の事業ではないが、和光大学が開催するアートイベント「サトヤマアートサンボ」に協力し、館内に作品を展示(11/2~11/20)

令和6年度 麻生市民館岡上分館 管理等に関する実施計画

(令和6年12月10日現在)

◆工事・維持管理に関する実施事項

実施名	内 容	実績 (千円)	実施状況
集会室カーテン交換	集会室のカーテン交換（外したカーテンは傷みの激しい図書室のカーテンと交換）	142	7月実施
旧空調機補給水槽撤去工事	使用されていない旧空調機の補給水槽が設置されたままとっているため撤去工事を行う	320	11月実施
学習室クロス張替え	色の変色及び経年劣化によるクロス張替え	99	12月実施
体育室暗幕カーテン交換	経年劣化している暗幕カーテンの一部を交換	77	12月実施
旧シャワー室の倉庫への改装工事	長年使用されていないシャワー室を書庫・倉庫に改装する工事を行う	追加実施	2月～3月予定
照明のLED化に向けた調査	館内照明のLED化（令和7年度）に向け、既存の電灯設備調査を行う	他局予算	2月～3月予定
植栽管理業務	分館敷地内の樹木の剪定及び伐採	追加実施	2月～3月予定

◆その他改善事項

実施内容	実績 (千円)	実施状況
談話室を利用者が使用できるよう整え、利用方法を定めて運用を開始	—	4月実施
図書室のレイアウト変更や郷土誌資料の書庫の拡充、また、ちょっとした交流学習の機会の場所として活用開始	—	5月実施
体育室の老朽化した卓球台を新規購入	171	11月実施
学習室の電子ピアノを利用者が置きたい場所に配置できるよう移動台車を作製。また、高さ調整できる椅子を新規購入	15	12月実施

※主な実施内容は館内にも下記のとおり掲示

こんなことして下さると、今年度はいい年になると思います(と思います)！

注目!!

2024年度！今年度はこんなことを改修しました(します)！

- ☺(4月) 利用者のみならず談話室を使えるようにしました！(利用できる条件が揃いますので職員にお尋ねください)
- ☺(5月) 図書室の環境を整えました！…まだ途中段階ですがカーテンの取替、テーブルの間隔を広げ、ゆたかにした学習スペースです
- ☺(6月) 集会室のカーテンを新調しました！…ちょっと生地が厚めのカーテンです。
- ☺(11月) 学習室の電子ピアノの椅子を新しく交換しました！…高さ調整ができるようにお付けしました。卓球台を新たに購入して体育室に設置しました！…大切に使うね(館長からの声・お・が・い・)
- ☺図書室をちょっとした交流学習の場として活用することにしました！…「相手をくっつけてみよう」を開始しました「フットワーク」
- ☺(12月) 体育室の暗幕カーテンを新しい物と取り替えます！…全部じゃありません、明るくするかも？学習室の壁クロスを張り替えます！…白を基準としたものになります、明るくするかも？学習室の電子ピアノが楽に移動できるよう移動台車をつくります！…館長の手づくりDIY
- ☺(1月) 護面台を新たに購入予定

令和6年度 第2回川崎市社会教育委員会会議麻生市民館専門部会 摘録

■日時 令和6年10月8日（火） 午後2時0分～午後4時22分

■出席委員 麻生区地域教育会議議長（部会長） 井上 俊夫
市民委員（副部会長） 濱田 富美恵
麻生区町会連合会常任理事 岡倉 進
市民委員 田澤 梓
和光大学現代人間学部非常勤講師 角田 季美枝
麻生市民館サークル連絡会 平出 圭子
麻生区PTA協議会副会長 前村 嘉昭
麻生区文化協会副会長 横川 博行
（欠席）川崎市麻生中学校長 金子 三弘

■事務局 麻生市民館 土屋館長、管理担当 内藤係長、社会教育振興係 松本係長、照井
麻生市民館岡上分館 相澤分館長

■傍聴者 5名

■議事

（1）令和6年度の主な事業・工事予定について

事務局（松本係長、内藤係長、相澤分館長）

資料1・2に基づき説明

前村委員

若い世代の参加が少ないということについて、新しい事業を実施する際に、どのようなプロセスで実施しているのでしょうか。例えば、俳句の場合だと、明らかに若い世代の申し込みが少ないことは事前に想定できるかと思います。市民講師活用事業として、その方の育成という観点もあると思うがフォローアップとしても、こういったプロセスで行っているのかが気になった。

事務局（松本係長）

俳句の講座については、提案者が他のところでも活躍されている方ということもあり、企画内容についてはあまり手を加えていない。タイトルについては分かりやすいものにしようかとやりとりをしていた。

横川委員

麻生区は俳句が盛んな地域。俳句は結社単位で行われているが、どこの結社も高齢化により維持が難しくなっている問題がある。若い人に入って貰いたい状況だが、どこの結社も平日の昼の実施となっている。若い世代のことを思えば、土日じゃないと来られないと思うが、会場として土日は継続的に取るのが難しい状況。この講座も、地域全体として俳句文化を盛り上げていくためには必要で、応援できればと思う。

角田委員

「10代から」だと情報の届け方にも課題がある。地域教育会議やPTA関係の方にはお知らせされていますよね。

事務局（松本係長）

はい、市民館関係者の方々にはお知らせしています。それ以外の方、特に20代からの働いている世代へ情報が届けられていないという課題があると考えています。

前村委員

市民館が何をしているところが伝わっていない。保護者世代でも、市民館の存在を知らない人の方が多いと思う。30代40代なども含めて、市民館自体をどのように認知していくか、検討していく必要があると思う。

岡倉委員

前村委員が言われていた、各講座の実施をどのようなプロセスで決めているか教えて欲しい。

事務局（土屋館長）

実施要綱に記載されている事業名の枠組みにおいて、各職員が事業内容を検討し、他の職員や係長・館長などと相談をしながら決めている。要綱に基づいて実施していくため、マーケティングに基づいた企画や、自由な発想という面では出来ていない部分もあると思います。

角田委員

要綱とマーケティングなどは相反するものではないと思う。逆に要綱があるから取っ掛かりとして進めやすい側面もあるのではないかな。

前村委員

先ほどの発言としては、講座内容というよりも、「若い人を集めたい」という講師側のニーズにどのようにフォローしたかというプロセスのこと。失敗しても良いとは思いますが、結果をどう受け止めて、次にどう活かすかなど、一連のプロセスで活かしていかないと勿体ない。

井上部会長

各事業・講座の内容について審議していくことは、この専門部会の役割でもある。

岡倉委員

実施要綱を変えていくことは必要だと思うので、検討して欲しい。

事務局（松本係長）

これまでも社会や川崎市の状況から改正を繰り返している。色々と御意見いただいているように、現役世代へのアプローチが弱い面があるので、考えていきたい。

角田委員

岡上分館のボッチャについて、3回の実施を計画していたが、1回が中止になった。再実施の計画はしないか、予算はどうなるのかなど、提案団体とのやりとりも含めて教えて欲しい。

事務局（相澤分館長）

中止となった時点で再実施の話を提案団体と行ったが、会場の市民館の予約状況と提案団体のスケジュールとして再実施は難しいということになった。未実施となるため、予算はその分戻入という対応になる。申込も多く手応えもあり、提案も3年目で最終年でもあったため、団体としても分館としても残念な結果となってしまった。

(2) 令和6・7年度協議テーマの選定について

井上部会長

資料3に基づき、前回の振り返り。

専門部会の業務分掌として、市民館が実施している事業の調査・審議も役割となっている。

角田委員

令和8年度からは指定管理者による運営になる。麻生市民館がどうあって欲しいかなどの検討を始めていった方が良くとも思う。その上で、指定管理者への委託の仕様書や、事業の実施要綱などをどのように書くか意見を言えれば良い。ただ、川崎市全体の話なので、変えるのも難しいとは思うが。

岡倉委員

指定管理になった際に、現状ルール化・文書化されていないようなところをどのようにするか。例えば、サークル連絡会と市民館との関係など、これまでは文書化されていない関係性も、指定管理になったときに「市民館は関係ない」となってしまうのではないかと。

濱田副部会長

今どんな課題があるか、どんなニーズがあるか、市民館をどう使いたいかなど分からないことが多い。専門部会として、現状を共有していくことも大切だと感じた。自分としてはPTAの家庭教育学級の講師派遣や、地域教育会議の取組に注目している。PTAなど、地域への広がりの可能性も感じるが、他方、PTAが組織として無くなっている学校もあつたり課題もあり、それぞれがバラバラなので後ろから支えていけると良い。西生田中学校の家庭教育学級が参加者が多く、区PTA協議会が共催で、全区のPTAを対象として市民館の大会議室で実施したが、250人と大勢の参加だった。内容としては進路説明だったが、関心の高いプログラムだと参加が多いということが改めて分かった。何かをやりたい市民も大勢いると思う。

前村委員

以前、虹ヶ丘小学校のPTA会長をしていたが、虹ヶ丘小学校は世帯数が120世帯で、講師派遣事業などでやりたいアイデアがあつたとして、マンパワーがなくて事業を回すことが出来ない。各学校が従来の枠組みでは、回していくことが出来なくなっているという現状。一つのイベントに一つの学校で従来のような手を掛けられないのであれば、相乗りをしたら良いのではないかとこのことで、西生田中学校の家庭教育学級で区PTA協議会として共催させて貰った。地域教育会議など他の組織でも同様の課題はあると思う。市民館も、従来の枠組みの中でサポートをしていくだけでなく、既存の枠組みをどうすると上手く回るかなどの視点でサポート出来ると良い。

濱田副部会長

私も以前、西生田中学校のPTA会長をしていたが、委員決めの際に毎年なかなか委員が決まらない状況だった。今年度は委員を廃止して、LINEオープンチャットでアナウンスする方法に変更となった。今回の家庭教育学級も、オープンチャットでの呼び掛けから実施に至った。ツールや考え方が変わっていく状況で、従来の枠組みに捉われないような取組を進めていく必要があると感じる。市民館としても、そうしたサポートが出来ると良いと強く感じた。

角田委員

事業報告の中で気になったのは、子どもの権利については参加者が少なく、性教育は参加者が集まるということ。子どもの権利に関心が低いということは課題だと感じる。そうした部分をどのように育てていくか。市民館が頑張る以外に、こども文化センターや小学校、地域教育会議なども重要で、そうした関係する組織のコーディネート機能を市民館が担うことも必要ではないかと感じる。事業・講座を実施するだけでなく、「まちに飛び出す市民館」として、コーディネート力を培っていく。指定管理になると、いま市民館にいる職員は、区役所で仕事をする事になり、市民館や区役所の他部署との連携なども役割としてあると思うし、やれることも広がっていくのではないかな。

横川委員

市民館・大会議室を借りるときに、高齢者世代は椅子や机を並べる作業が難しくなっている。舞台の上に横断幕を吊るのも難しい。ギャラリーも良い施設だが、高齢者になるとそこでの準備も出来なくなっている。高齢者のそうしたニーズはあるが、他方で高齢者世代が頭の切り替えが出来ていないところもある。例えば、「横断幕は舞台の上に掛けることになっている」などで、プロジェクターで投影させれば代替が可能なのに意識として変えられない。現状は市民館のスタッフからは「セッティングは各利用者で行っていただいている」と言われるだけ。利用者目線でのそうした困りごとを解決する術は無いかな。

田澤委員

どんな麻生市民館にしたいか、方向性が見いだせると良い。コーディネートの話や、世代ごとに助け合うような、今後、指定管理になっても継続できる仕組みが出来れば良いのではないかな。

平出委員

小学校・中学校との繋がりが必要と感じた。大人が子どもに教えるだけでなく、例えばスマホの使い方など子どもが大人に教えることも出来る。高齢者が会議室を利用する際にも、世代間で助け合いが出来たら素晴らしい。

麻生市民館独自の取組を考えると、他館に比べ、中庭スペースもあり自然もあるので、そうした面を活かすことは出来ないかな。例えば、遊歩道に俳句を配置して回遊するような仕掛けや、東屋で演奏会をしたり、中庭スペースを活かした使い方も出来ると良い。

岡倉委員

新たに地域連携の仕方を考えていくと、事業が変わっていくような気がする。学校・団体・企業など、様々なところと連携をして、そうした事業を評価するような仕組みがあると地域が盛り上がっていくのではないかな。

井上部会長

これまでのお話しから、テーマを整理してみたい。①市民館を知らない人も含めた広報の仕方、市民館だより・ホームページなどを考えていく。②サークル連絡会などと市民館との関係性などルール化されていないところの連携を明確化させる。③事業・講座を企画する際のルール化の検討。④多世代の市民館利用の拡大の検討。⑤市民館のコーディネート力の向上。例としては子どもの権利などで関連団体との連携を図るなど。⑥どんな市民館だと良いかを考えてみる。

角田委員

指定管理の仕様書にも記載して欲しいと思っているが、いつまでに決まっていくのか。

事務局（土屋館長）

来年4月から指定管理者の募集を開始していくので、その時点では仕様書はオープンになる。

専門部会の審議スケジュールとは一致しないが、指定管理者は専門部会で審議された内容を事業に反映していくことが仕様書の中には盛り込まれるので、専門部会として協議していくテーマを仕様書に載せなくとも大丈夫だと考えている。

事務局（松本係長）

仕様書には、「〇〇に関すること」など抽象的な書き方となり、指定管理業者が決まった後に引き継ぎの中でやりとりをしていくことになるかと考えている。引き継ぎにあたっては、実施していない事業を引き継ぐということは難しいため、来年度までに実際にやっておくことが必要かと考えている。

角田委員

中原市民館や高津市民館の応募が出ていた際、仕様書を見たが、その区らしさというところは感じられなかった。事業者からの提案の中には盛り込まれているのだろうが、その部分を見ることは出来ない。市民としては、麻生区の課題や、こういった市民館であると良いというところは仕様書に盛り込めると良い。

事務局（松本係長）

専門部会としては仕様書に落とし込むのではなく、ありがたい姿を目指すというのではないかと。

角田委員

麻生市民館だけでなく、岡上分館についても話し合いたい。

事務局（松本係長）

話しが前後するが、若年層など幅広い世代に向けて謎解きイベントに手ごたえを感じている。遠方からの参加者も多かった。市民館とは関連が無くとも、人が集まるイベント・テーマ。

平出委員

市民館に何キッカケで入って来るのかというのがポイント。

事務局（相澤分館長）

岡上分館も謎解きイベントの場所の一つ。若い世代からよく「ここは何の施設か」聞かれる。また岡上分館は地元密着型の分館でありたいと思っており、地域の方が気軽に入れるような施設にしたい。現在、図書室の利用があまりされていないため、気軽に利用できることを掲示物や、地域のイベントをやっていきたいと考えている。この前は音を楽しむイベントを実施。他にも、図書室に郷土資料があり、それを活用した勉強会も検討している。指定管理者にも、図書室の使い方などを提案に盛り込んでもらいたいと考えている。

横川委員

「AI 俳句と俳句のこれから」というテーマで講座を行ったが、他の地域からの参加者も多いため、文化の発展には繋がるだろうが、地域のためになっているのかは分からない。

前村委員

市民館がやっていることを情報発信し続けることも大切。SNS など、情報発信をしていかないとなかなか人が集まっていけない。SNS でなくとも良いが、若い人をターゲットにする場合など何かそことの繋がりが必要だと思う。

田澤委員

小学校や中学校は、チラシを配らずにイベントアプリで告知するようになっているが、アプリにアクセスして見に行かないと、情報を見ない。目に入って認識しないと参加には繋がらないと思うが、イベントアプリ以外にも様々なホームページ、タウンニュースなどの紙面など情報は様々なところに散らばっている。そうした情報を上手く受け取れるようになっていくと、活動が広がっていくのかなと思う。

井上部会長

幸市民館で市民館ジャックのイベントをした際に、「何を見て来たか」アンケートを取ったら、アプリを見て来た人は3%。他はポスターやチラシ。まだ過渡期かと感じる。20代から50代までがウィークポイント。私も市民館を知らなかった。ホールがあるのは知っていたが、それだけだと思っていた。そういう面から、市民館をどのように広報していくか。

事務局（松本係長）

今年度から「ひとのわ」を進めているが、『何かやりたい』という人が徐々に口コミで市民館に訪れるようになってきている。人数は極わずかだが、現役世代も隙間時間にやりたいことを叶える場として、貢献できているのではないかと感じている。

井上部会長

テーマ選定の方向性だけでも決めていきたい。

事務局（松本係長）

こちらでやることを提示するのではなく、専門部会の皆さんがテーマを考え、それを基に市民館の取組としてフィードバック出来るのが良いと思う。

井上部会長

昨年度実施した一箱古本市については、今年度はどうするのか。

事務局（松本係長）

昨年度は、大きく利益をあげられた方もいる一方、全く売れなかった方もいた。また出展者の感想を聞いていて、市民館として、とりまとめて実施する難しさや課題も多いと感じている。

「ひとのわ」として一人、一箱古本市をやりたいという方がいて、スケジュール等が合えば実施するかも知れない。課題や上手く回る仕組みを専門部会で検討することも出来ると思う。

井上部会長

テーマの一つとして、一箱古本市を一回だけのやりっぱなしではなく、定着するような方向に出来たら良いのかなとも思う。

前村委員

一箱古本市を実施して、成功することや、課題があっても改善することは、事業全体のプロセスだと思う。そのプロセスは他にも活かせるもので、そうしたプロセスを上手く回していけるように考えていくことも重要だと感じる。市民館自体の付加価値を上げることにも繋がると思う。

田澤委員

一箱古本市だけだと集客力はあまりないと思う。前は子育てイベントに付随させたから集客にも繋がった。他のイベントとの連携も考えられると思う。またその際に、例えば大学生にもボランティアとして一緒にやってもらうような、既存のイベントやサークル活動にもつなげられるような取組、繋がりや助け合いを進められるようなものになれば良いと思う。

濱田委員

昨年度の一箱古本市では、謎解きと同じように「一箱古本市」というキーワードで来た人が多かった。また、市民館を知らなかった人、広報が伝わっていない人も多くいた。こうした事業は一回だけでなく、複数回実施して、参加者や運営側も課題や効果を理解しながら進めていくことも必要だと感じました。

前村委員

古本については出したい人はいっぱいいる。出したい人をリストにして貯めておくことも後々イベント実施の際に活用できるのではないかな。

事務局（松本係長）

法律・条例などの面から、個人情報には1年以上保有できず、また事業が終わったら情報を廃棄することになっているため、不用意に個人情報を集めないようにしている。

岡倉委員

要綱の中に、「各区の地域性を事業に生かすこと」とあるが、この地域性を議論して整理することも必要だと思う。また、「修了後の自主的な活動に向けた仲間づくりに配慮すること」ともあるが、先ほどの個人情報の取り扱いの問題もある中で、どのように仲間づくりをすると良いのか市民館としてやり方などを示せると良い。一箱古本市のような事業を実行委員会形式で進めていくことも良い取組だと思う。

角田委員

試しに、麻生市民館らしい成人教室事業がどういうものかを考える。例えば要綱に「成人初期の課題や就労者等の地域参加などの課題に留意すること」とあるが、具体的にどういうことなのか、調査などを通じて考えてみないと分からないようなこともある。さらに、地域特性として、成人初期の課題となると、より分からなくなっていく。まずは、市民館・分館がそうした留意点について、どこまで把握しているのかを聞いたりして、進めていければ良い。広報は、今やっている事業のタネとなるようなアイデアが無いか、呼び掛けなどで膨らませられれば良い。個人的に気になっているのは、子どもの権利・子育ての孤立化などだが、成人教室の検討をしていくと繋がっていくような気もしている。

濱田委員

学校に行っていない子どもを地域社会としてどのように受け止めるか。地域全体で取り組むべき課題だと思う。そのための学びを始める機会に出来れば良い。

井上部会長

今回は、一箱古本市をどのように進めていくと良いのか、地域性を考慮した麻生市民館らしい事業のあり方、成人をどのように集めるか、仲間づくりなど、その辺りを審議して、提言としてこんな事業をやったら良いということに結び付けられればと思う。スケジュールなど前回の資料

があると思うので、次回の部会にて示してもらい、テーマ案について数字として出せれば良いかと思う。

角田委員

委員の連絡網を共有して貰うことは出来ないか。あと、傍聴人数について、2名としているのは何故か、増やせないかを知りたい。

井上部会長

連絡網は皆さんに御賛同いただければ進められるかと思う。

角田委員

急な提案なので、次回で結構です。

(3) その他

井上部会長

次第に記載の次回以降の予定について。

以上